

目的 家政学は実践的を学問であるといわれるが、現実の生活の低下防止・生活の向上にほとんど無力であるという声が多い。したがって家政学における実践の意味を検討し、現代において家政学の実践はいついあるべきかを明らかにしようとした。

方法 思弁的方法による。

結果 実践は実験や実習とは異って、実際の社会において、実際に目的を達するための行動である。実践の研究は一般の科学の研究と異り、単一の科学の方法のみでなく、種々の科学の方法を駆使しなければならない。実践は問題解決であって、用いる方法は問題・時期等によって異なる。従来の家政学は生活における問題解決の意識をほとんどもたず、被服・食物等の研究のみを専念し、その時代における生活上の問題点の発見にも無関心であった。これでは実践の名に値しない。実践において最も重要なことは、目的達成に最も有効な手段を選ぶことである。生活の維持・向上を目的とする家政学において、被服・食物・住居・家族・経済・管理等の、あるいは自然・社会・(人文)の各科学の方法のうち、その時点においてどれ、どの方法に重点をおくべきかの選択が重要である。従来実践とは手を使うことであるの如く考えられていたようにあるが、それは前述のような目的を達するための行動でなければならない。現代社会における生活の維持・向上の手段として、家事技術よりも、経済・社会・政治の知識・能力の活用の方が重要である。現代における家政学の実践は、家庭生活の側面から物価・公害・福祉の問題にとりくむことを行わなければならない。